

**共生型サービスを開始してから
現在に至るまで**



**社会福祉法人デンマーク牧場福祉会
特別養護老人ホーム ディアコニア
生活相談員：川手洋之**

社会福祉法人デンマーク牧場福祉会

東海道53次のだ真ん中静岡県袋井市の南端 小笠山麓 茶畑に隣接している50hの広大な大地

日本福音ルーテル教会 の支援のもと

1964年 デンマーク（スカンジナビア）式の農学校（フェルケ・ホイスコーレ）

1974年～10年 簡易宿泊所（フリースクール）を経て

1984年 **こどもの家** フリースクール

途中で一度閉鎖した牧場を松田正幸・麻美子夫妻と少数のスタッフで再開

乳牛を育て搾乳 ⇒ 牛乳、ヨーグルト、アイスクリームを生産・販売

全国各地からの、不登校児、家庭内暴力、非行児などと共同生活

1994年より、武井院長（聖隷三方原病院勤務時代）「こどもの家」の仲間たちと交わる

2001年 **自立援助ホーム**として、措置された少年たちも受け容れる

2003年2月 社会福祉法人 **デンマーク牧場福祉会**

5月 特別養護老人ホーム **ディアコニア** 開設

2007年4月 児童養護施設 **まきばの家** 自立援助ホーム **こどもの家** 開設

7月 精神科診療所 **こひつじ診療所** 開院 → 2016年9月 居場所支援事業**ひとむれ**

2013年3月 **牧場部門**の運営も 社会福祉法人の事業として認可をうける

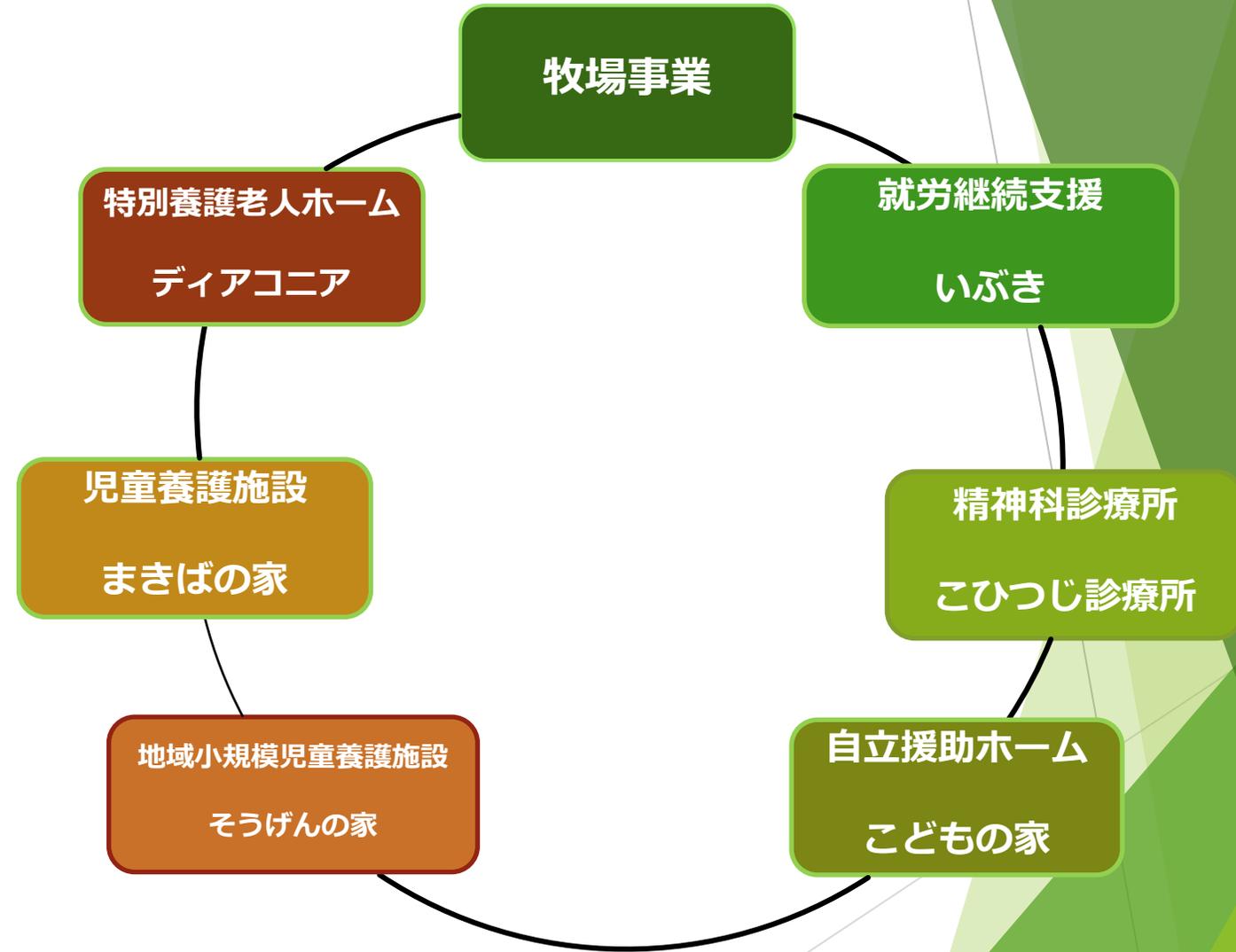
2019年 就労継続支援B型事業 **いぶき** 開設 → 2020年10月 就労継続支援A型事業開始

2021年9月 特定相談支援・障害児相談支援 開始

2023年4月 地域小規模児童養護施設 **そうげんの家** 開設



社会福祉法人 デンマーク牧場福祉会



特別養護老人ホーム デイアコニア



特別養護老人ホーム

定員80名

短期入所 ショートステイ

定員10名

通所介護 デイサービス

定員30名

居宅介護支援・障がい児者相談支援
デイアコニア支援センター



【クリスマスランチ】



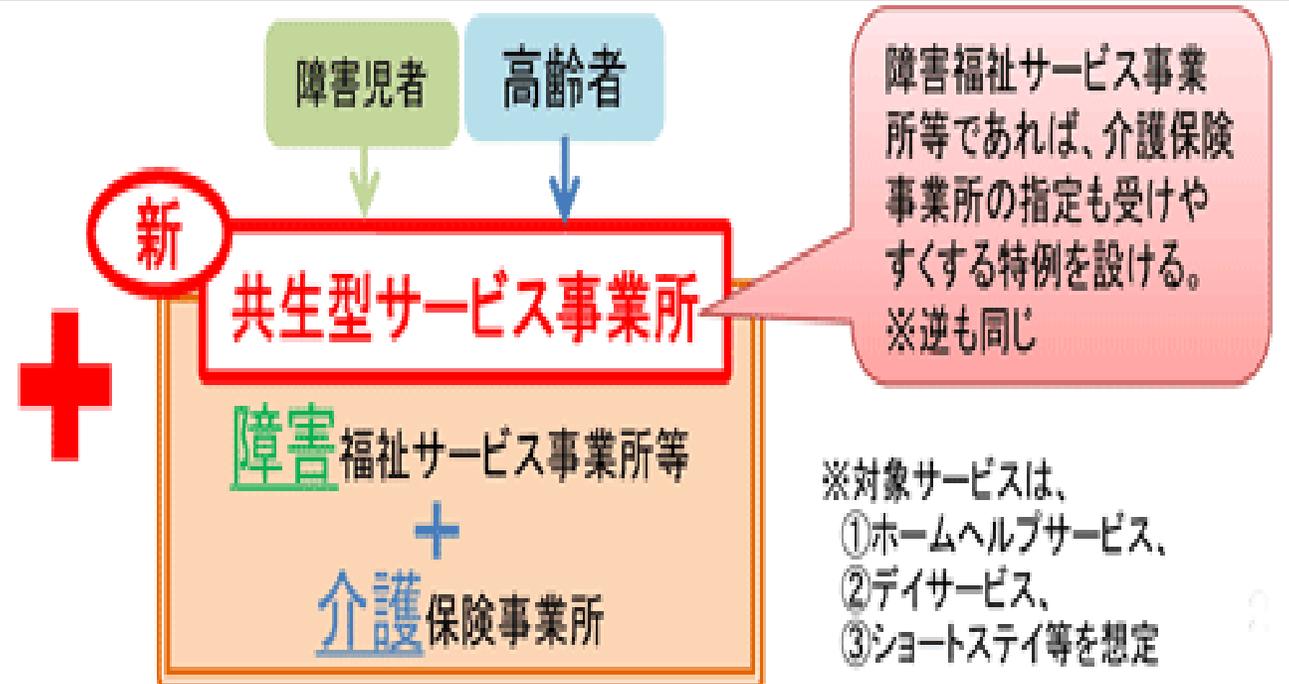
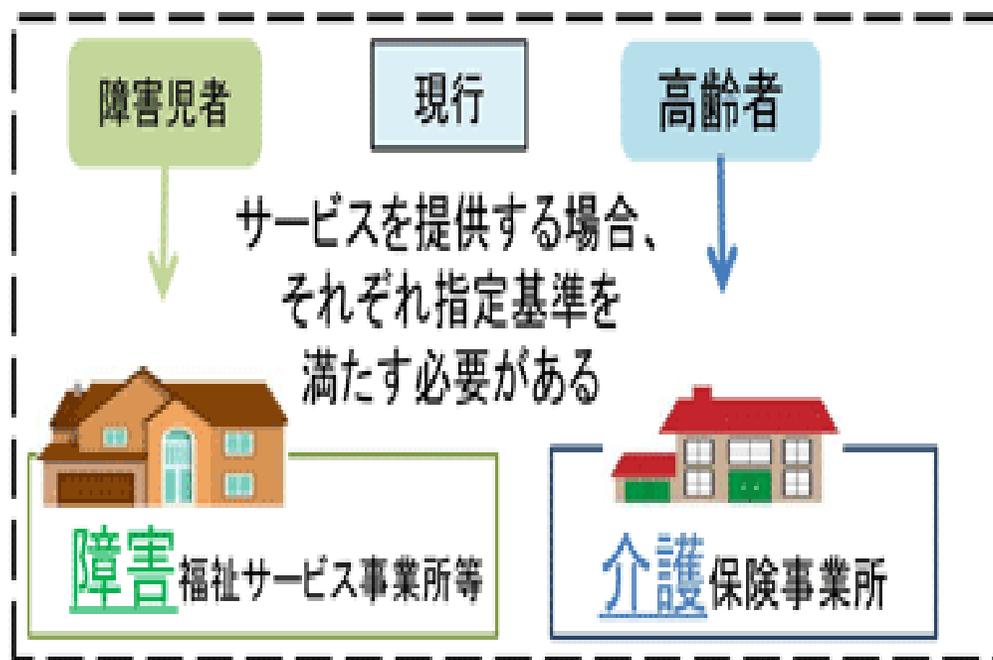
【クリスマスランチ嚥下食】

共生型サービス開始（2019年4月～）

ディアコニア 共生型 ショートステイ
ディアコニア 共生型 短期入所
ディアコニア 共生型 デイサービス
ディアコニア 共生型 生活介護

新たに共生型サービスを位置づけ

- 高齢者と障害児者が同一の事業所でサービスを受けやすくするため、介護保険と障害福祉両方の制度に **新たに共生型サービスを位置付ける**。（指定基準等は、平成30年度介護報酬改定及び障害福祉サービス等報酬改定時に検討）



共生型サービスの取り入れ背景

- 2014年4月～12月
人員不足でのショートステイ一時閉鎖
- 2016年9月
「ひきこもり居場所支援ひとむれ」委託
- 2019年4月
「就労継続支援B型事業所いぶき」を開設
共生型生活介護「ディアコニア・デイサービス」開始
共生型短期入所「ディアコニア・ショートステイ」開始
- 2020年10月
「就労継続支援A型事業所いぶき」併設
- 2021年4月
「ディアコニア支援センター－障害者(児)相談支援事業所」開始

ディアコニア
経営的危機

稼働落ち込み続く

稼働の安定/ニーズの
受け止め

障害事業の検討

就労支援を検討する
中で共生型サービス
が出てきた。

求められている現状
から事業化へ

共生型サービス スタート準備として

受け入れ職員の不安解消

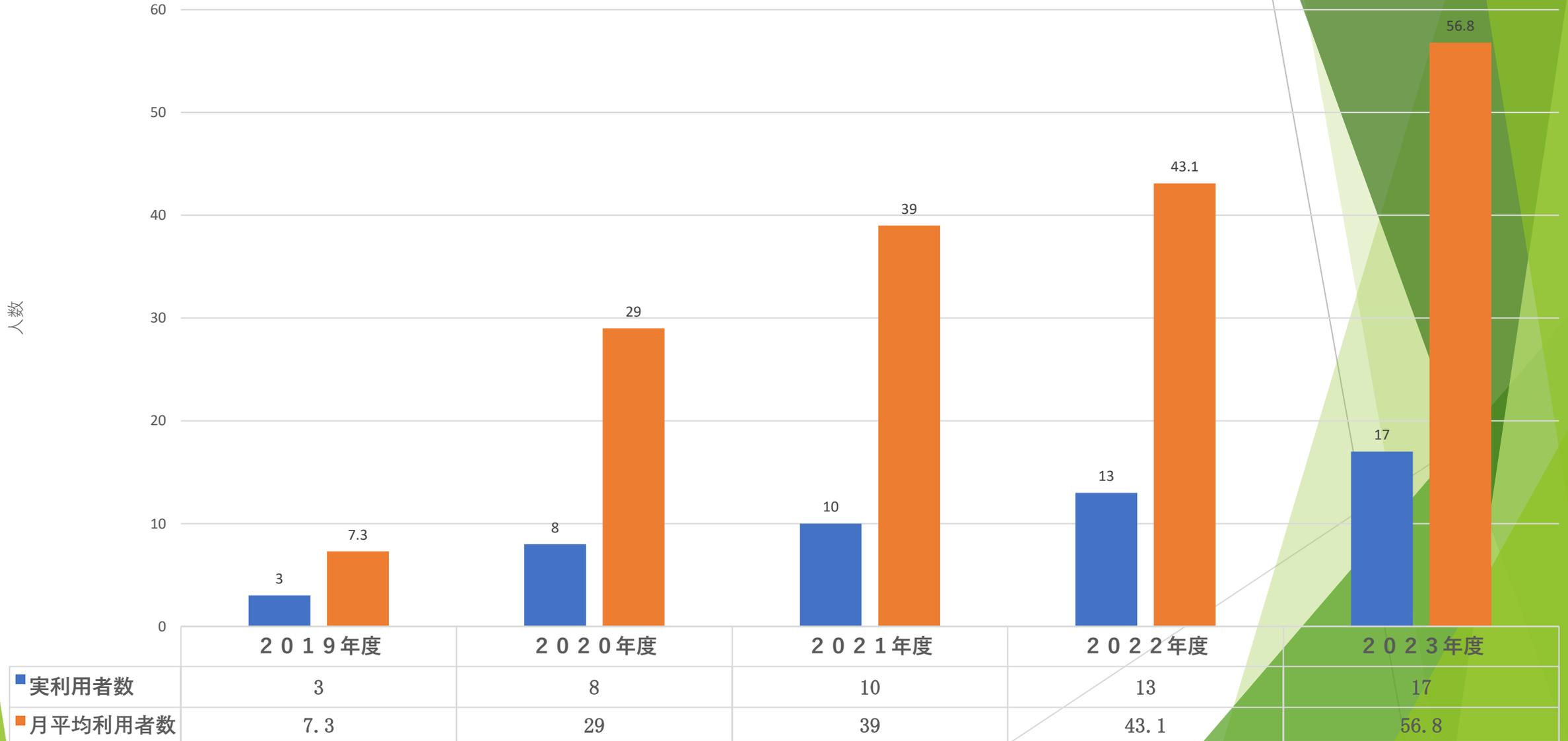
- ▶ 障害者施設へ研修にいった。
- ▶ 大学教員や障害者施設の職員から障害者受け入れに当たってのアドバイスを受けたたり勉強会を行った。

初めての受け入れ時には

- ▶ 家族面談、その後関係部署が集まり事前打ち合わせを綿密に行った。
- ▶ 担当相談支援員とは都度、課題解決に向けて連絡を取り受け入れていった。

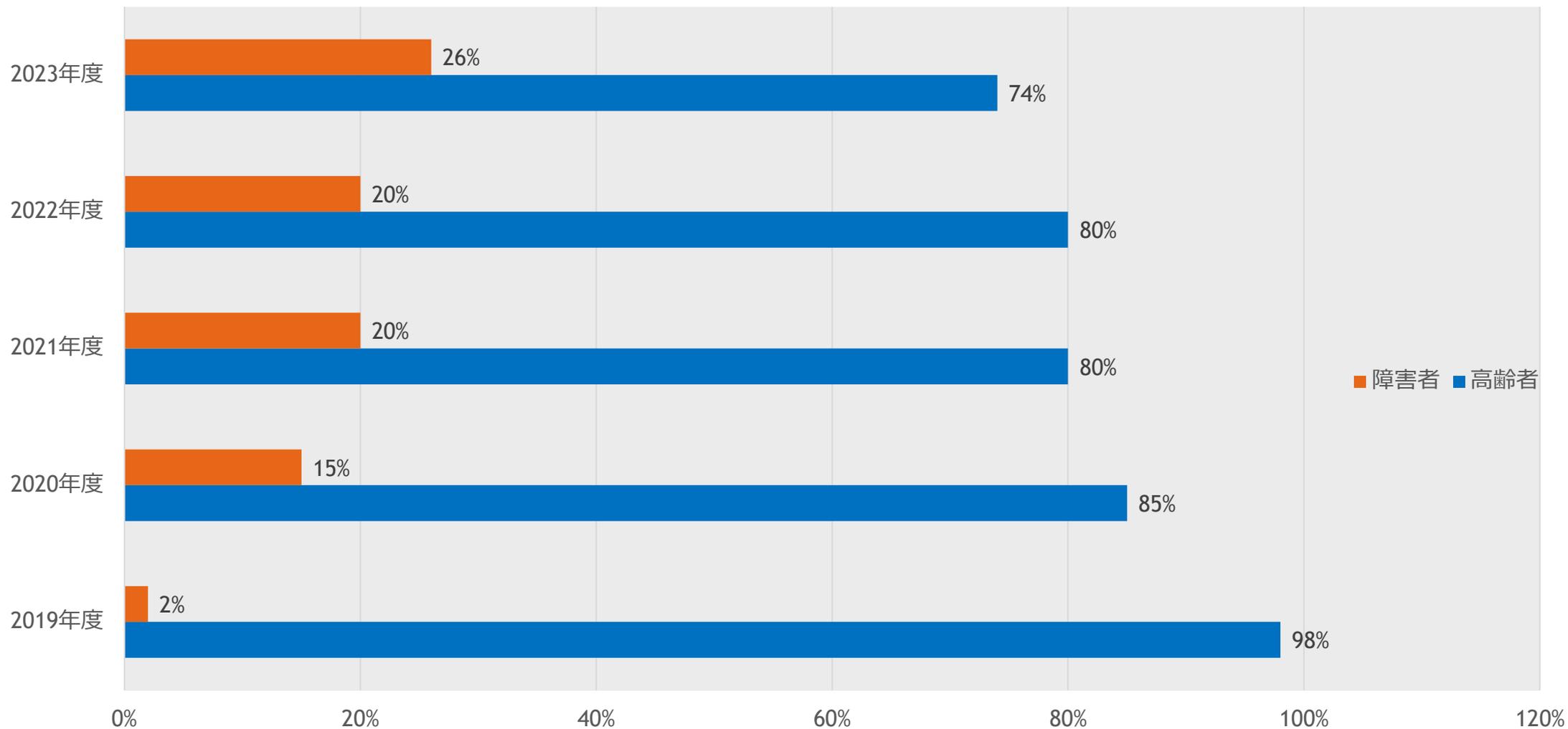
短期入所利用状況

短期入所利用状況



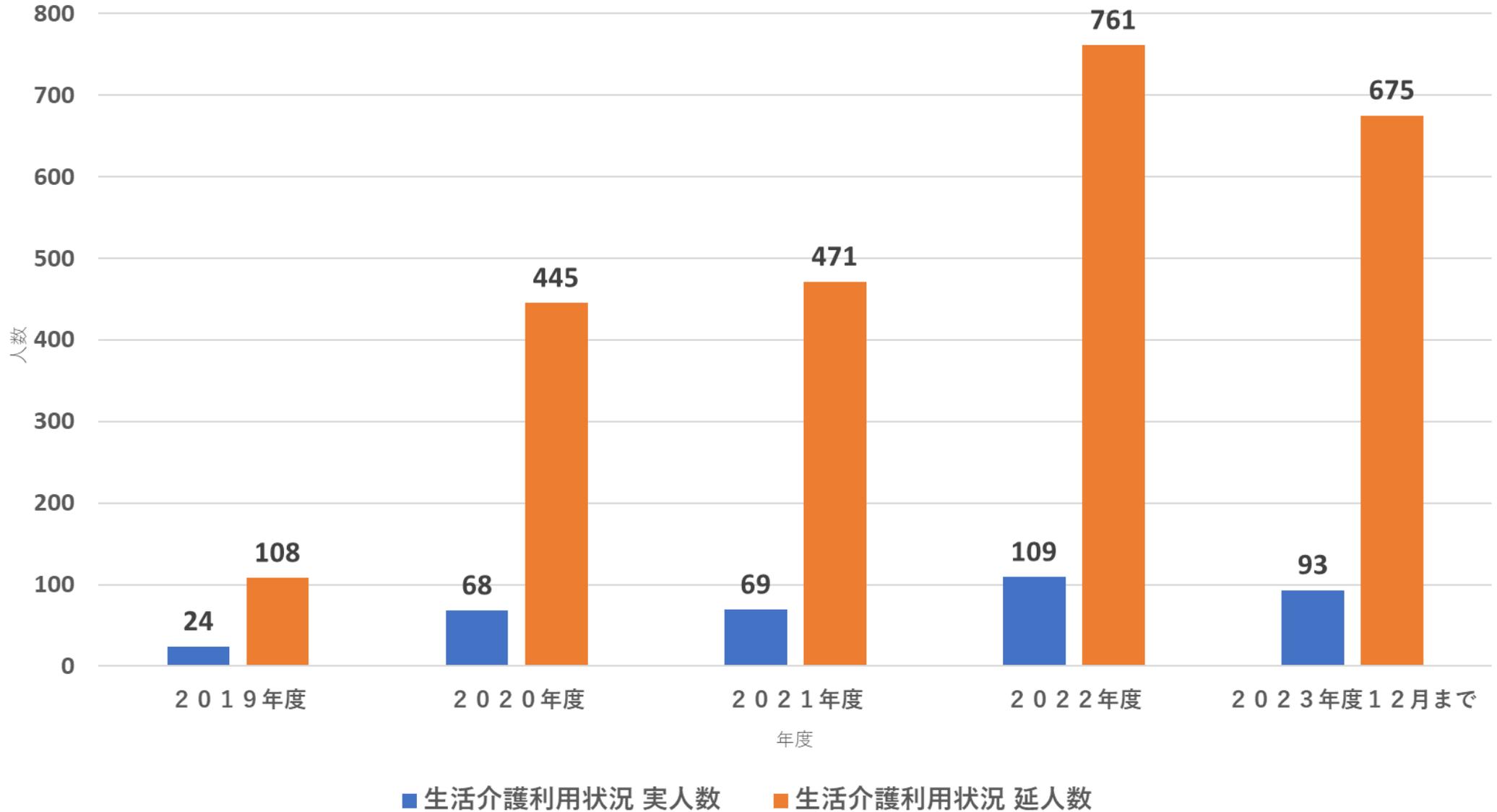
ショートステイ・短期入所利用状況比率

ショートステイ10床の利用比率



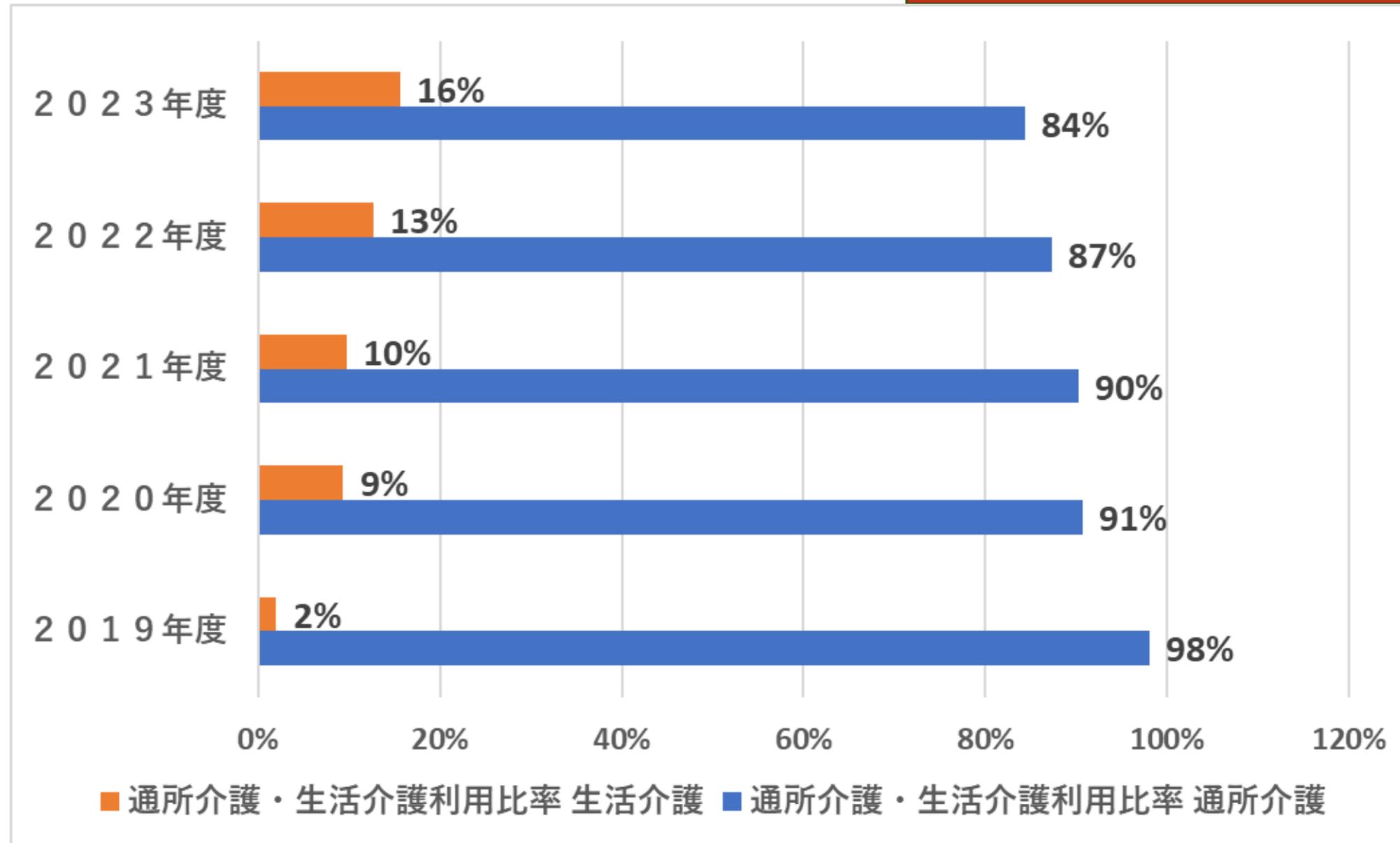
生活介護利用状況

生活介護利用状況



デイサービス・生活介護利用状況比率

デイサービス定員25名の利用率



共生型利用者の受け入れ経過

- ・ 初年度は初めての受け入れということもあり、少人数での受け入れであった。
- ・ 利用者家族同士の繋がりや、支援相談事業所からの継続的な相談を受けることで徐々に利用者人数や利用日数が増加していった。
- ・ 同法人内の就労支援事業所との連携により、就労支援サービス利用者が作業後に短期入所を利用されるケースもできた。

共生型利用者の受け入れ経過

- ・ 共生型利用者の利用目的は、ご家族のレスパイトであったり、将来を見越して違う環境で過ごす、泊まることに対して慣れてもらうため等の理由から
- ・ 初めに生活介護を利用して環境に慣れてきたらショートも利用していく傾向が強い。
- ・ 共生型利用者の大半が日中は生活介護を併用して利用している。

ショートステイでの短期入所利用状況



デイサービスでの生活介護利用状況



午後のレクリエーションの様子



安全に入浴できるミスト機械浴



機能訓練の様子
理学療法士と行います。



短期入所での現状と課題

- ▶ 介護施設としての設備や介護技術が提供できる。
- ▶ 身体介助が必要な方の利用希望が集中しやすい傾向。
(障害区分5・6の方が多い)
- ▶ スタッフの配置が介護保険上の配置で、身体面や重心障害者に関わるスタッフの対応に限界を感じる部分がある。
- ▶ 高齢者との体格差。補助器具の設備がなく、介護技術でカバーできない場合がある。

短期入所での現状と課題

- ▶ 障がい特性が様々で、介助により個別ケアが求められる。
- ▶ 障害者特有の疾患やそれに伴う処置など、職員が知識、経験不足な点があり、対応に苦慮する場面がある。
- ▶ ショートご利用の高齢者が、障がい者に対する認識が差別的な所があり、態度に表れることがある。
- ▶ 同性介助の配慮がより必要。

生活介護での現状と課題

- ▶ 場が明るくなる。高齢者の方からも「若い子がいると活気が出る。」という声もあがっている。
- ▶ 中には高齢者の方と相性の合わない方もあるが、職員が間に入ることで大きな問題は起きていない。
- ▶ 利用されている方が区分5～6の方がほとんどで、介助量が多い。

生活介護での現状と課題

- ▶ 高齢者の方にと比べると、より個別ケアが必要となってくる。
(精神的に不安定な方がやや多い)
- ▶ 活動と一緒にできる方ばかりではない。(個別ケアの対応)
- ▶ 奇声をあげる方に対しての理解をして下さる方ばかりではない。
- ▶ 市外からの利用者も多く、ご家族が送迎を行って下さっているが、ご家族も高齢になってきているため送迎の需要も出てくるということが考えられる。

生活介護での現状と課題

▶ 利用者の区分 登録 16名 (実働 14名)

区分 3 : 2名

区分 4 : 1名

区分 5 : 9名

区分 6 : 4名



高齢者福祉と障害者福祉の制度の違い

- ▶ それぞれの制度理解が必要。実費等の取り扱いの違い。
- ▶ 短期入所と日中活動系サービスの併用の取り扱い。
(障がいサービス)
- ▶ サービス利用管理の違い。
 - ・ 高齢者はケアマネが利用日や金額等を管理。
 - ・ 障がい者は家族が管理する場合が多い。
 - ・ 複数の事業所を利用している場合は、実績管理に他事業所との連携が必要。
 - ・ サービス費が発生する場合は、上限管理が必要。

まとめ

- ▶ 障がいの事業所が限られておることから、時々気分転換のご利用や、レスパイト的にご利用になる場合がある。
- ▶ 障がい福祉計画の中でも共生型短期入所を進めている。
- ▶ 入所施設の共生型サービスは短期入所と生活介護の組み合わせで支援できる。
- ▶ 地域生活支援拠点を進める中で共生型福祉施設を増やすことが必要となっている。



目の前にいる一人ひとは
愛される人として大切にされるいのちである

